

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2020年1月24日
【四半期会計期間】	第31期第3四半期（自 2019年9月21日 至 2019年12月20日）
【会社名】	株式会社アジュバンコスメジャパン
【英訳名】	A D J U V A N T C O S M E J A P A N C O . , L T D .
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 松井 健二
【本店の所在の場所】	神戸市中央区下山手通五丁目5番5号
【電話番号】	078(351)3100（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部本部長 中川 秀男
【最寄りの連絡場所】	神戸市中央区下山手通五丁目5番5号
【電話番号】	078(351)3136
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部本部長 中川 秀男
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第30期 第3四半期連結 累計期間	第31期 第3四半期連結 累計期間	第30期
会計期間	自 2018年3月21日 至 2018年12月20日	自 2019年3月21日 至 2019年12月20日	自 2018年3月21日 至 2019年3月20日
売上高 (千円)	3,917,146	3,618,542	5,163,649
経常利益又は経常損失 () (千円)	332,720	53,024	251,495
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失 () (千円)	117,339	85,708	25,061
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	117,511	89,293	25,453
純資産額 (千円)	4,642,158	4,273,752	4,550,100
総資産額 (千円)	5,920,656	5,470,085	5,870,832
1株当たり四半期(当期)純利益又は1株当たり四半期純損失 () (円)	14.78	10.77	3.16
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	14.70	-	3.14
自己資本比率 (%)	78.4	78.1	77.5

回次	第30期 第3四半期連結 会計期間	第31期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自 2018年9月21日 至 2018年12月20日	自 2019年9月21日 至 2019年12月20日
1株当たり四半期純利益 (円)	1.80	14.39

(注) 1. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態については遡及処理後の前連結会計年度末の数値で比較を行っております。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、消費税増税の影響で一時的に落ち込むものの、引き続き設備投資の増加基調が続くなど、底堅い内需により堅調に推移しております。また、海外経済においては、米中の通商問題や香港の条例改正案に対する抗議活動の長期化、米国とイランの対立激化等による地政学的なリスクに一層の留意が必要な状況となっております。

美容業界におきましては、顧客単価の下落、来店サイクルの長期化等、サロン^{注1}経営において厳しい環境が続いており、当社商品を販売するアジュバンサロン^{注2}においても同様の影響がありました。

このような状況のもと、当社グループは、営業方針を「年間販促計画の策定と実行」「カウンセリングの知識・技術の習得」「アフターフォローの習慣化」「顧客分析の徹底と関係性の強化」として掲げ、サロンの安定した経営サポートを目指しております。

また、社員教育制度の一新、サロンアンサーシステム^{注3}導入サロンの拡充に努めてまいりました。9月初旬には、スキンケア商品の「AEシリーズ」を「All Enrich」としてリニューアルし、積極的に商品のプロモーション等を行い、成長のための基盤づくりを進めてまいりました。

売上高につきましては、上半期までの売上減少分をカバーするには至らず、当第3四半期連結累計期間の売上高は3,618百万円（前年同期比7.6%減）となりました。詳細は区分別売上高の概要をご参照ください。なお、アジュバンサロン登録軒数につきましては、当第3四半期連結会計期間末で7,673軒（前期末比313軒増）となりました。

売上高の減少及び成長のための基盤づくりの取り組み並びに人件費等の一般管理費の増加により利益面では、営業損失80百万円（前年同期は営業利益287百万円）、経常損失53百万円（前年同期は経常利益332百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は85百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益117百万円）となりました。

区分別売上高は、売上割戻金を含めて次のとおりであります。

区分	前第3四半期連結累計期間		当第3四半期連結累計期間		増減額 金額（百万円）	増減率 （％）
	金額（百万円）	構成比（％）	金額（百万円）	構成比（％）		
スキンケア	1,451	37.0	1,446	40.0	4	0.3
ヘアケア	2,160	55.2	1,831	50.6	329	15.2
その他	593	15.2	624	17.3	30	5.2
売上割戻金	288	7.4	284	7.9	4	-
合計	3,917	100.0	3,618	100.0	298	7.6

(注) 1. エクシードシステム株式会社（連結子会社）、ADJUVANT HONG KONG COMPANY LIMITED（連結子会社）の売上高は、「その他」に含んでおります。

2. 売上割戻金は、商品ごとではなく売上高の合計を基準として割戻率を設定しているため、区分ごとに配賦せず合計額で表示しております。

国内海外別売上高は、次のとおりであります。

区分	前第3四半期連結累計期間		当第3四半期連結累計期間		増減額	増減率
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	(%)
国内売上高	3,728	95.2	3,435	94.9	292	7.9
海外売上高	188	4.8	183	5.1	5	3.1
合計	3,917	100.0	3,618	100.0	298	7.6

当社グループは、単一セグメントであるためセグメント別の記載はしていませんが、区分別売上高の概要は以下のとおりであります。

(スキンケア)

スキンケア商品の売上高は、当期よりスタートした新キャンペーン制度の浸透に時間を要したことと、変更前制度の期末駆け込み需要の影響がありましたが、「AEシリーズ」をリニューアルした「All Enrich(オールエンリッチ)」は、概ね計画通りに推移しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,446百万円(前年同期比0.3%減)となりました。

(ヘアケア)

ヘアケア商品の売上高は、当期よりスタートした新キャンペーン制度の浸透に時間を要したことと、変更前制度の期末駆け込み需要の影響に加えて、前期リリースした商品の販売が想定よりも伸び悩んだことにより減少いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,831百万円(前年同期比15.2%減)となりました。

(その他)

サロンアンサーシステムにおきましては、当第3四半期連結会計期間末における契約件数が932件(内、アジュバンサロンへの契約は91件)となり、堅調に推移しております。

当第3四半期連結累計期間の売上高は624百万円(前年同期比5.2%増)となりました。

注1「サロン」

理美容室・エステティックサロン・ネイルサロン・アイラッシュサロン・美容クリニック等を指します。

注2「アジュバンサロン」

初回到100千円以上の仕入を行い、当社グループが指導する商品の案内方法等を定めたアジュバンサロン契約を締結したサロンを指します。

注3「サロンアンサーシステム」

エクシードシステム株式会社(子会社)が販売する、クラウド型経営サポート(サロンの顧客管理、経営分析)システムを指します。

財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較して400百万円減少し、5,470百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末と比較して122百万円減少し、2,850百万円となりました。主な変動要因は、現金及び預金の減少216百万円、受取手形及び売掛金の増加132百万円、有価証券の減少100百万円によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末と比較して277百万円減少し、2,619百万円となりました。主な変動要因は、売却等による投資有価証券の減少247百万円によるものであります。

流動負債は、前連結会計年度末と比較して108百万円減少し、723百万円となりました。主な変動要因は、賞与支給による賞与引当金の減少45百万円、未払法人税等の減少110百万円によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比較して15百万円減少し、472百万円となりました。主な変動要因は、長期借入金の減少14百万円によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末と比較して276百万円減少し、4,273百万円となりました。主な変動要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失による減少85百万円、配当金の支払による減少190百万円によるものであります。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は、121百万円であります。

3【経営上の重要な契約等】

当社は、意思決定の迅速化と組織運営の効率化を目的として、2019年12月6日開催の取締役会において、当社100%出資の連結子会社である株式会社アジュバンコスメティック（兵庫県神戸市中央区、資本金10百万円、代表取締役社長田中順子）と合併することを決議しました。また、同日付けで両社は合併契約を締結しました。

合併の概要は、次のとおりであります。

(1) 合併の方法

株式会社アジュバンコスメジャパンを存続会社とし、株式会社アジュバンコスメティックを消滅会社とする吸収合併であります。

(2) 合併期日

2020年3月21日

(3) 合併に際して発行する株式及び割当

株式会社アジュバンコスメティックは、当社の完全子会社であることから、本合併による株式、金銭その他の財産の交付は行いません。

(4) 引継資産・負債の状況

合併期日（効力発生日）において、株式会社アジュバンコスメティックの資産・負債及び権利義務の一切を承継いたします。

(5) 吸収合併存続会社となる会社の概要

本合併による当社の資本金、事業内容、名称、所在地、代表者の役職、氏名等の変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	22,000,000
計	22,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年12月20日)	提出日現在発行数(株) (2020年1月24日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	7,970,400	7,970,400	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数100株
計	7,970,400	7,970,400	-	-

(注) 1. 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社の標準となる株式であります。

2. 「提出日現在発行数」欄には、2020年1月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年9月21日～ 2019年12月20日	-	7,970,400	-	759,671	-	719,602

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2019年9月20日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年12月20日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 6,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 7,962,200	79,622	(注1)
単元未満株式(注2)	普通株式 1,800	-	-
発行済株式総数	7,970,400	-	-
総株主の議決権	-	79,622	-

(注) 1. 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社の標準となる株式であります。なお、1単元の株式数は、100株であります。

2. 「単元未満株式」の欄には、当社保有の自己株式3株が含まれております。

【自己株式等】

2019年12月20日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合 (%)
株式会社アジュバンコスメジャパン	神戸市中央区 下山手通5丁 目5番5号	6,400	-	6,400	0.08
計	-	6,400	-	6,400	0.08

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2019年9月21日から2019年12月20日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年3月21日から2019年12月20日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月20日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,386,853	1,170,170
受取手形及び売掛金	612,209	744,995
有価証券	100,000	-
商品及び製品	704,834	690,324
仕掛品	15,694	14,671
原材料及び貯蔵品	40,340	77,344
その他	117,666	157,894
貸倒引当金	4,676	5,229
流動資産合計	2,972,922	2,850,172
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,133,414	1,137,934
土地	720,678	720,678
その他	423,700	456,530
減価償却累計額	547,789	627,658
有形固定資産合計	1,730,004	1,687,484
無形固定資産		
投資その他の資産	39,669	45,244
投資有価証券	819,338	571,456
その他	318,309	324,578
貸倒引当金	9,413	8,850
投資その他の資産合計	1,128,235	887,184
固定資産合計	2,897,909	2,619,912
資産合計	5,870,832	5,470,085
負債の部		
流動負債		
買掛金	149,350	155,709
1年内返済予定の長期借入金	20,100	20,000
未払法人税等	118,000	7,700
賞与引当金	103,418	58,059
その他	441,767	482,487
流動負債合計	832,636	723,956
固定負債		
長期借入金	17,755	2,780
退職給付に係る負債	40,178	42,381
資産除去債務	15,355	15,304
長期未払金	384,470	384,470
その他	30,335	27,440
固定負債合計	488,095	472,375
負債合計	1,320,731	1,196,332

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月20日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月20日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	757,730	759,671
資本剰余金	729,434	731,374
利益剰余金	3,067,591	2,790,948
自己株式	5,833	5,833
株主資本合計	4,548,922	4,276,160
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	802	2,856
為替換算調整勘定	1,979	448
その他の包括利益累計額合計	1,177	2,407
純資産合計	4,550,100	4,273,752
負債純資産合計	5,870,832	5,470,085

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年3月21日 至 2018年12月20日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月21日 至 2019年12月20日)
売上高	3,917,146	3,618,542
売上原価	1,514,487	1,475,772
売上総利益	2,402,658	2,142,770
販売費及び一般管理費	2,114,980	2,223,393
営業利益又は営業損失()	287,677	80,622
営業外収益		
受取利息	4,923	1,954
受取配当金	467	22,663
受取家賃	4,930	1,350
保険返戻金	24,973	-
為替差益	3,139	-
雑収入	6,889	2,568
営業外収益合計	45,323	28,537
営業外費用		
支払利息	155	160
為替差損	-	775
雑損失	125	2
営業外費用合計	280	938
経常利益又は経常損失()	332,720	53,024
特別利益		
固定資産売却益	1,018	-
投資有価証券売却益	200	-
特別利益合計	1,218	-
特別損失		
固定資産売却損	1,981	-
固定資産除却損	8,758	2,811
減損損失	47,297	-
特別損失合計	58,037	2,811
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	275,901	55,835
法人税、住民税及び事業税	150,741	21,551
法人税等調整額	7,820	8,321
法人税等合計	158,561	29,872
四半期純利益又は四半期純損失()	117,339	85,708
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失()	117,339	85,708

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年3月21日 至 2018年12月20日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月21日 至 2019年12月20日)
四半期純利益又は四半期純損失()	117,339	85,708
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	132	2,053
為替換算調整勘定	39	1,531
その他の包括利益合計	172	3,585
四半期包括利益	117,511	89,293
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	117,511	89,293
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年3月21日 至 2018年12月20日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月21日 至 2019年12月20日)
減価償却費	58,789千円	86,713千円
のれんの償却額	14,189千円	-千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年3月21日 至 2018年12月20日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月15日 定時株主総会	普通株式	189,888	24	2018年3月20日	2018年6月18日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年3月21日 至 2019年12月20日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月14日 定時株主総会	普通株式	190,934	24	2019年3月20日	2019年6月17日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2018年3月21日 至 2018年12月20日)

当社グループは、アジュバン化粧品の商品企画、研究開発、販売及びこれに付随するサービス業務を営む単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年3月21日 至 2019年12月20日)

当社グループは、アジュバン化粧品の商品企画、研究開発、販売及びこれに付随するサービス業務を営む単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年3月21日 至 2018年12月20日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月21日 至 2019年12月20日)
(1) 1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失 ()	14.78円	10.77円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	117,339	85,708
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	117,339	85,708
普通株式の期中平均株式数(株)	7,937,525	7,960,118
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	14.70円	-円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	46,156	-
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年1月24日

株式会社アジュバンコスメジャパン
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 西野 尚弥 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小林 雅史 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アジュバンコスメジャパンの2019年3月21日から2020年3月20日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2019年9月21日から2019年12月20日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年3月21日から2019年12月20日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アジュバンコスメジャパン及び連結子会社の2019年12月20日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。